盲ろう者とは？コミュニケーションの方法とは？

○盲ろう者とは？

「目（視覚）と耳（聴覚）の療法に障害を併せもつ人」である。

○盲ろう者の分類

全盲ろう：全く見えず、全く聞こえない
全盲難聴：全く見えず、聞こえにくい
弱視ろう：見えにくく、全く聞こえない
弱視難聴：見えにくく、聞こえにくい

いずれかの障害が先行していた人もいれば、先天性の盲ろう者、成人してから視覚・聴覚両方に障害を生じるなど人によって、どの程度の障害なのか、いつから障害とともに生きているのかは異なる。それと同時に情報の取得方法やコミュニケーションの方法も異なるので、個別に対応する必要がある。

＊手書き文字・文字筆談
手書き文字は文字を触って理解するもので、文字筆談は文字を見て理解するものである。盲ろう者の多くがこの方法を使ってコミュニケーションをとっているというデータがある。
＊触手話
手話を基本としたやり方であり、手話を使う相手の両手に軽く触りながら触読することから「触手話」と呼ばれている。弱視の人は「弱視手話」と呼ばれる近距離で相手の手話を目で見て理解する。
＊指文字
相手の手のひらに、指文字を書いて会話をする。
＊指点字
「指で指に打つ点字」のことである。盲ろう者の両手の人差し指・中指・薬指の 6 本にタッチすることで言葉を伝えたり、点字タイプライダーのキーを打つ時のようにして打つことで言葉を伝えたりする。障害が重く、声を聞きとることが難しい盲ろう者に多く使われている。

	触る	見る
手話	触手話	弱視手話
指文字	指文字	
点字	指点字	
文字	手書き文字	文字筆談

成人してから点字や手話を学ぶには多大な努力が必要である。
（弱視や難聴の場合、適切な配慮・環境があれば視覚や聴覚も活用できる）
　技術や知識がないと、点字や手話は簡単に使うことができない。またコミュニケーションをとるには、通訳する人が必要になってくる。
　授業での体験で多く行われたのは、指文字や手書き文字であり、道具もいらないので気軽に行いやすい。コミュニケーションをとるには、手話や点字を使わずにできるということがもっと分かれば、限られた中ではなく多くの人と関わる機会ができるだろう。

＜参考文献＞
盲ろう者のコミュニケーションについて（comit-k.org）